

令和6年 稲作情報 vol.4

※この資料は、令和6年6月1日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

※この資料は、県ホームページでも公開しています。

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36250a/inasakugijyutujyohou.html>



南会津農林事務所農業振興普及部	Tel	0241-62-5262
南郷普及所	Tel	0241-72-2243
J A会津よつば田島営農経済センター	Tel	0241-63-1172
南郷営農経済センター	Tel	0241-72-2554
下郷資材センター	Tel	0241-69-1088
只見資材センター	Tel	0241-84-2214

- 適切な水管理で有効茎数を確保しましょう。
- 草種に応じた除草剤を使用し、残草を早めに除草しましょう。
- いもち病対策を実施しましょう。

<作業スケジュール（参考）>

	5月	6月			7月		
	下	上	中	下	上	中	下
田植え	田植え	今回の内容					
雑草防除	初期剤・初中期一発剤の散布				中～後期剤の散布		
	Vol.3参照						
水管理	浅水管理				中干し	間断かんがい	

※ 作柄判定ほ（田島・ひとめぼれ中苗）の田植期平年値（5/24）から例示。

次回の内容

1 気象情報（気象庁1か月予報（6/6発表）から抜粋要約）

向こう1か月（6/8～7/7）の平均気温は高い、降水量・日照時間はほぼ平年並の見込みです。期間の前半では天気は数日の周期で変わり、後半では平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

◎ 農作業中の熱中症に注意！

県内では毎年5月上旬から農作業中の熱中症が発生しています。熱中症を正しく理解し、予防に努めてください。

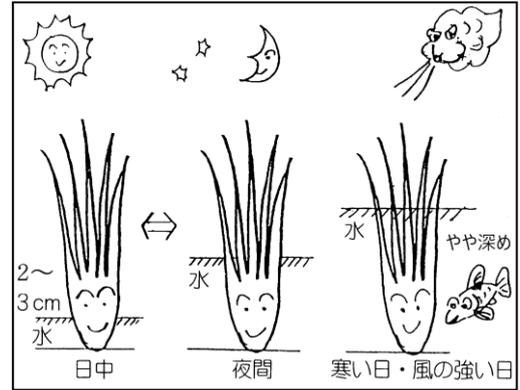


熱中症対策について（県HP）

2 水管理

(1) 分けつ期（活着後～7月上中旬）

- ・ 活着後は浅水管理（水深2～3cm）で日中の水温を上げやすくし、分けつの発生を促します。
- ・ 寒い日や風の強い日はやや深水とします。
- ・ 生育が停滞している（分けつが遅い、発根が弱い、根が黒色に変色）場合は土壌中のガスが原因と考えられるため、2～3日落水し、ガス抜きしましょう。



(2) 有効分けつ決定期～幼穂形成期前（7月上中旬）

- ・ 茎数を目安に中干しを実施しましょう（コシヒカリ 20 本/株、ひとめぼれ 25 本/株）。田面に深さ 1 cm ほどの亀裂が入る程度（足跡がつく程度）を目安に行います。
- ・ 生ワラ施用田や粘質土壌、生育過剰田では強めに、地力のない田や茎数が少ない田、葉色が薄い田、砂質土壌では軽く干す程度に実施しましょう。

3 雑草対策

(1) 藻類の対策について

- ・ 移植直後に藻類が多発生すると、水温や地温の低下、苗のなぎ倒し、肥料養分の収奪等により分けつを抑制してしまふことがあります。
- ・ 対策 1：落水して軽く田面を干す。
- ・ 対策 2：藻類（アオミドロ）に登録のある除草剤（下表例）を散布する。

薬剤名	適用雑草	使用時期	施用量 (/10a)	使用方法	本剤の使用回数
モゲトン 粒剤	藻類(アオミドロ・アマミドロ)	ウキクサ類、藻類の発生始～発生盛期 (ただし、収穫 45 日前まで)	2～3 kg	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	3回以内
		藻類・表層はく離の発生時 (ただし、収穫 45 日前まで)	2 kg	水口施用	
	藻類による 表層はく離	藻類・表層はく離の発生時 (ただし、収穫 45 日前まで)	2 kg	水口施用	
			1～2 kg	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	

(2) 雑草の防除について

- ・ 残草が目立つ場合には、草種に応じて中期剤や後期剤（次ページ表参照）を使用します。草種と葉齢を確認し、使用時期及び施用量を守って使用してください。
- ・ 畦畔等の雑草は斑点米カメムシ類の温床となるため、出穂 10 日前までに数回刈払いを実施しましょう。
- ・ 適正な水深を維持して農薬の効果を十分に発揮させるため、水口、水尻の管理に注意します。また、農薬散布後 7 日以上は止水管理とし、落水や掛け流しを行わないようにします。

○ 中期剤、後期剤の例

薬剤名	適用雑草	使用時期	施用量 (/10a)	使用方法	本剤の 使用回数
ヒエクリーン 1キロ粒剤	ヒエ	移植後 15 日～ヒエ4 葉期 (ただし、収穫 45 日前まで)	1 kg	湛水散布又は無人 ヘリコプターによる散布	1 回
バイスコープ 1キロ粒剤	ウリカ オモダカ クログワイ シズイ ハラオモダカ ホタルイ ミズガヤツリ 一年生雑草(ヒエ を除く)	移植後 14～60 日 (ただし、収穫 45 日前まで)	1 kg	湛水散布、ごく浅く 湛水して散布又は 無人航空機による 散布	1 回
ツイゲキ 1キロ粒剤	一年生雑草及び 多年生広葉雑草 アオイトロ・藻類に よる表層はく離	移植後 14 日(稲 5 葉期以降) ～ヒエ4 葉期 (ただし、収穫 60 日前まで)	1 kg	湛水散布	1 回

◎ 農薬危害防止運動が始まります

福島県では6月10日から9月10日まで農薬危害防止運動を実施します。以下に注意し、安全かつ適正に農薬を使用しましょう。

- ・ 農薬使用前のラベルの確認及び農薬使用後の帳簿への記録
- ・ 適切な防護装備の着用の徹底
- ・ 誤飲を防ぐため、施錠による保管の徹底
- ・ 住宅地周辺で使用する際の周辺への配慮、飛散防止の徹底

4 いもち病対策

- ・ いもち病は夏季の低温、多雨、日照不足の気象条件により感染好適条件となります。葉いもちの早期発見に努め、適期に防除しましょう。
- ・ いもち病の発生源となるため、置き苗は廃棄しましょう。

(1) 予防剤の散布

- ・ 箱処理剤を施用していない場合は、水面施用剤で防除しましょう。

薬剤名	使用時期	施用量 (/10a)	使用 方法	本剤の 使用回数
フジワン粒剤	葉いもちに対しては初発 7～10 日前、 穂いもちに対しては出穂 10～30 日前 (ただし、収穫 30 日前まで)	3～5 kg	湛水散布	2 回以内
コラトップ粒剤 5	葉いもちに対しては初発 10 日前～初発時、 穂いもちに対しては出穂 30 日前～5 日前まで	3～4 kg	散布	2 回以内

(2) いもち病の予測

福島県病害虫防除所 HP にて発生予察情報を公開しています。
日々の対策にご活用ください。



発生予察情報
(防除所HP)

次回発行は6月下旬頃(斑点米カメムシ類・
病害対策について)を予定